

2026 年度 株式会社 DIANT DX 施策 一覧表（現状と今後の計画）

■ DX 推進体制と意思決定プロセスについて

当社は取締役会設置会社ではないため、DX 戦略の策定および推進に関する重要な意思決定は、取締役会に準ずる機関である「経営会議」において審議・承認されています。

1. 経営ビジョン・ビジネスモデル・DX 戦略

項目	実施している施策	具体的なタスク	今後の目標
企業間データ連携	Lark や Dropbox などのクラウドツールを使い、社内外でデータやノウハウを安全に共有する仕組みを作っている。	・外部パートナーへの共有権限の付与 ・デザインデータやマニュアルのクラウド管理	クラウド間の連携をさらに強化し、会社をまたぐプロジェクトでも安全かつ最速でデータ共有ができるモデルを確立する。
社会・業界への貢献	自社で成功した DX（Lark や AI 議事録の活用など）のノウハウを、お客様の業務改善やブランディング支援に活かしている。	・自社の DX 成功事例のノウハウ化 ・クライアントへの業務改善提案	自社のノウハウを「伴走型 DX コンサルティング」としてサービス化し、地方企業やクリエイティブ業界のデジタル化を引っ張る存在になる。
柔軟なビジネス環境	クラウドツールを全面的に導入し、組織の拡大や方針転換にすぐ対応できる環境を整えている。	・各種クラウドサービスの全社導入	クラウドサービス同士の連携を深め、経営方針や業務フローの変更にもシステム開発不要（ノーコード）で即座に対応できるようにする。
DX 戦略の推進	代表自らが AI やデータ活用の重要性を発信。工数管理データベースを使って、制作業務を効率化するシナリオを作っている。	・案件進行と工数管理データベースの運用 ・AI テクノロジーの活用検証	蓄積した工数データを分析し、デザインの質向上とスピードアップを両立する「データに基づく独自の制作フロー」を完成させる。
データ活用と管理	日々のタスクや作業時間、コミュニケーション履歴などをデータとして蓄積。セキュリティルールも整備している。	・日々の業務データの記録と整理 ・情報セキュリティ基本方針の公開	データから「標準の作業時間」や「成功パターン」を分析し、社内教育やコンサルティングに活用する。取引先とのデータ連携ルールも法令に合わせて強化する。
新規サービスの創出	社内で蓄積したノウハウを解析し、Web ブランディング支援や DX 推進の教育コンテンツとして提供を始めている。	・自社ナレッジの分析・体系化 ・新しい支援パッケージの企画	ノウハウを中小企業向けの「DX 移行支援パッケージ」として正式に商品化し、新しいビジネスの柱として売上を立てる。

2. 組織づくり・人材育成

項目	実施している施策	具体的なタスク	今後の目標
DX を推進する体制	代表取締役を DX 推進の最高責任者とし、全部署を網羅した横断的な推進組織を構築。現場の DX リーダーと連携し、新しいツールを定着させている。	・DX 推進責任者（代表）による全体統括・全社横断的な DX プロジェクトの実施 ・現場の DX リーダーの配置 ・Lark での動画・テキストマニュアル作成	現場から「DX リーダー」を任命し、経営陣と現場をスムーズに繋ぐ。各部門が自発的にデジタル技術を活用できる組織にする。
外部ツールの活用	AI 議事録や最新のクラウドサービスを自発的にテストし、すぐに業務に取り入れている。	・最新 SaaS や AI ツールのテスト導入 ・スタッフによる業務効率化ツールのカスタマイズ	IT 先進企業やセキュリティ専門家と定期的に連携。現場で新しいツールを素早く検証・導入できるような権限のルールを明文化する。
DX のための投資	新しいデジタルツールの導入を単なるコストではなく「強みを伸ばす投資」と考え、経営層主導で DX 専用の予算を確保している。	・AI ツールやクラウド基盤への投資 ・DX 推進用「攻めの IT 予算枠」の管理	売上高の一定割合を「DX 推進のための投資予算」として正式なルールにし、現場の新しいチャレンジをさらに後押しする。
デジタル人材の育成	デジタルスキル標準を参照した上で、自社に必要な DX スキルを定義。Lark マニュアルを活用した実践的教育や、資格取得支援などの具体的な人材育成を実施している。	・IT パスポート等の資格取得支援（費用補助等） ・「新ツール・AI 活用共有会」の定期開催 ・社員の IT スキル・習得度の可視化	国の「デジタルスキル標準」を参考に、自社に必要な DX スキルを定義。IT パスポートなどの資格取得支援制度を正式にスタートさせる。

3. IT システム・サイバーセキュリティ

項目	実施している施策	具体的なタスク	今後の目標
柔軟なシステム環境	自社サーバーを持たず、すべてクラウドベースで構築。古いシステムに縛られず、変化にすぐ対応できる。	・クラウドサービスへの完全移行 ・不要な旧システムの撤廃	導入ツールの状況を定期的にチェックし、特定のツールに縛られない「いつでも入れ替え可能な構成」を保つ。どこからでも安全に働ける環境を完成させる。
セキュリティ対策	「SECURITY ACTION(二つ星)」を宣言し、セキュリティ方針を Web で公開。アクセス権限の厳密な管理を行っている。	・各クラウドサービスでのアクセス権限設定 ・2 要素認証の義務付け ・スタッフへのセキュリティ研修の実施	セキュリティ対策のための予算と人材を計画的に割り当て。全システムの定期チェックやログ監視など、システム的な防御をさらに強化する。
緊急時の対応 (BCP)	万が一のトラブル時も、クラウドのバックアップからすぐにデータを復旧し、事業を継続できる体制を整えている。	・クラウドへのデータバックアップ運用 ・外部パートナーへのセキュリティルールの提示	セキュリティ事故を想定した緊急対応手順 (BCP) をマニュアル化。経営陣やスタッフ参加のシミュレーション訓練を定期的実施する。

4. 成果指標・ステークホルダーとの対話

項目	実施している施策	具体的なタスク	今後の目標
目標設定と効果測定	「社内会議 30% 削減」「納品スピード向上」などの目標 (KPI) を設定し、工数データをもとに戦略を見直している。	・定量的な成果指標 (KPI) の設定 ・工数データベースを用いた進捗確認	四半期ごとの経営会議で KPI の達成度を振り返り、マニュアルやツールの改善に活かす。データに基づきデジタル投資の方針を柔軟に決める。
社外への情報発信	代表自らが「DX への取り組み」ページを自社サイトに公開し、会社のビジョンや KPI を社外に発信している。	・自社サイトでの「DX への取り組み」ページの作成 ・情報セキュリティ基本方針の公開	削減した会議時間や品質向上などの「具体的な DX の成果」を実績として HP で公開する。経営陣の IT スキルを体系化し、対外的にアピールする。
採用・人材方針の公開	自社の教育プロセスや「IT リテラシー向上が重要」という考え方を、採用サイトなどを通じて発信している。	・自社リクルートサイトでの教育方針の発信 ・採用メッセージへの DX ビジョンの組み込み	求職者や顧客に対し、DIANT が求める「デジタル人材像」や育成方針をさらに魅力的に伝える。セキュリティに関する報告も定期的に公開していく。

5. 業務プロセスの DX (業務効率化)

項目	実施している施策	具体的なタスク	今後の目標
セールス	Web サイトや「カチログ」を通じた価値の言語化により、商談前の事前理解を促している。	・自社サイトによるコンテンツマーケティングの実施 ・LINE 公式アカウントによる見込み客の囲い込み	案件獲得までのフローの確立と、良質なリード獲得の向上。
案件管理	コラボレーションツール「Lark」を導入し、プロジェクト進行と社内コミュニケーションを統合している。	・Lark データベースによる案件管理 ・メッセージによる業務日報	進行のボトルネックを迅速に検知し、属人化を防ぐシームレスな案件管理体制を確立する。
デザイン制作	独自の工数管理データベースを活用し、制作プロセスや作業時間を可視化している。	・日々の作業工数の記録と分析 ・Lark の動画 / テキストマニュアルによるスキル共有 ・スタッフ向けのデザイン研修の実施	クリエイティブ時の工数を多く割いた部分の炙り出しを行い、どんな情報があればより効率的かを推測し、セールス時のヒアリングへ反映させる。
顧客管理	Lark、スプレッドシート、LINE などを活用し、顧客情報の集約と管理を進めている。	・Lark やスプレッドシートでの顧客管理をデータベース化 ・LINE オフィシャルアカウントへの集約	各データ管理情報の連携を強化。マスターデータとした一元管理できるスキームの構築。
請求管理	クラウド型ツールを活用し、紙やハンコに依存しないバックオフィス業務のデジタル化を進めている。	・見積り〜受注までをスプレッドシートで管理 ・納品〜請求を invox にてクラウド化 ・電子契約は GMO サインを活用 ・各種請求書・契約書を Google Drive にて管理	バックオフィス業務の自動化をより加速させる。具体的な設計と座組の構築、およびマニュアル化。
労務管理	多様な働き方にもすぐに対応できる、クラウド基盤での労務管理を行っている。	・Lark による出勤の管理 ・年 4 回の人事考課のデジタル化	従業員への評価システムの可視化を進め、全員が積極的に参加できる人事労務体制の構築。